

「論点整理」の構成

審議の取りまとめに向けた構成の検討案

「審議まとめ」の構成案

1. 2030年の社会と子供たちの未来
  - (1) 新しい時代と社会に開かれた教育課程
  - (2) 前回改訂の成果と次期改訂に向けた課題
2. 新しい学習指導要領等が目指す姿
  - (1) 新しい学習指導要領等の在り方について
  - (2) 育成すべき資質・能力について
    - ① 育成すべき資質・能力についての基本的な考え方
    - ② 特にこれからの時代に求められる資質・能力
    - ③ 発達段階や成長過程のつながり
  - (3) 育成すべき資質・能力と、学習指導要領等の構造化の方向性について
    - ① 学習指導要領等の構造化の在り方
    - ② 学習活動の示し方や「アクティブ・ラーニング」の意義等
3. 学習評価の在り方について
4. 学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策
  - (1) 「カリキュラム・マネジメント」の重要性
  - (2) 学習指導要領等の理念の実現に向けて必要な支援方策等
5. 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性
  - (1) 各学校段階の教育課程の基本的な枠組みと、学校段階間の接続
    - ① 幼児教育
    - ② 小学校
    - ③ 中学校
    - ④ 高等学校
    - ⑤ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校等における特別支援教育、特別支援学校
  - (2) 各教科・科目等の内容の見直し
    - ① 総則
    - ② 国語
    - ③ 社会、地理歴史、公民
    - ④ 算数、数学
    - ⑤ 理科
    - ⑥ 生活
    - ⑦ 音楽、芸術（音楽）
    - ⑧ 図画工作、美術、芸術（美術、工芸）
    - ⑨ 芸術（書道）
    - ⑩ 家庭、技術・家庭
    - ⑪ 体育、保健体育
    - ⑫ 外国語
    - ⑬ 情報
    - ⑭ 主として専門学科において開設される各教科・科目
    - ⑮ 道徳教育
    - ⑯ 特別活動
    - ⑰ 総合的な学習の時間
6. 今後の検討スケジュール等

- 学習指導要領改訂の背景に関するもの
- ・学習指導要領改訂の背景（情報化（人工知能の進化等）が教育に与える示唆）
  - ・未来を見据えた初等中等教育改革（平成27年12月9日産業競争力会議文部科学省説明資料）
  - ・「第4次産業革命に向けた人材育成総合イニシアチブ」（平成28年4月19日産業競争力会議文部科学大臣提出資料）
  - ・「小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について（議論の取りまとめ）」（小学校段階における論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成とプログラミング教育に関する有識者会議）

- 新しい学習指導要領等が目指す姿に関するもの
- ・アクティブ・ラーニングの視点と資質・能力の育成との関係についてー特に「深い学び」を実現する観点からー
  - ・主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）（案）
  - ・「知識」についての考え方のイメージ（たたき台）
  - ・現代的な課題やテーマに対応した教育（情報活用能力、健康、安全等に関わる育成すべき資質・能力、知的財産に関わる資質・能力の育成）

- 学習評価の在り方に関するもの
- ・学習評価の改善に関する今後の検討の方向性

- 学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策に関するもの
- ・「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて～」（平成27年12月21日中教審答申）
  - ・「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」（平成27年12月21日中教審答申）
  - ・「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」（平成27年12月21日中教審答申）
  - ・「次世代の学校・地域」創生プラン（平成28年1月25日）
  - ・次世代の学校指導体制在り方について（中間まとめ）（平成28年4月 文部科学省）
  - ・学校現場における業務の適正化に向けて（平成28年6月 文部科学省）

- 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性に関するもの
- ・総則・評価特別部会、小学校部会、中学校部会、高等学校部会における議論の取りまとめ
  - ・幼児教育部会における議論の取りまとめ
  - ・特別支援教育部会における議論の取りまとめ
  - ・各教科等ワーキンググループにおける議論の取りまとめ

1. 2030年の社会と子供たちの未来
  - (1) 新しい時代と社会に開かれた教育課程
  - (2) 現行の学習指導要領の成果と課題
2. 新しい学習指導要領等が目指す姿
  - (1) 新しい学習指導要領等の在り方について
    - ・「社会に開かれた教育課程」の実現と、総則を軸とした教育課程の総体的構造の可視化
    - ・学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現
  - (2) 育成すべき資質・能力について ～何ができるようになるか～
    - ・「生きる力」の理念に基づく知・徳・体の総合的な育成と資質・能力の三つの柱
    - ・各学校段階を通じて育成すべき資質・能力の三つの柱
    - ・学習や生活の基盤や現代的な課題に対応して教科横断的に育成すべき資質・能力
  - (3) 各教科等を学ぶ意義と教科等横断的な視点を踏まえた教育課程の編成 ～何を学ぶか～
  - (4) 各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実 ～どのように学ぶか～
    - ・主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点による学習過程の質的改善）
  - (5) 児童生徒の発達を踏まえた指導 ～子供の発達をどのように支援するか～
    - ・学習活動や学校生活の基盤作り（学級経営の充実、生徒指導の充実等）
    - ・キャリア教育の推進
    - ・特別支援教育の充実
    - ・児童生徒の日本語の能力に応じた支援の充実 など
  - (6) 学習評価の充実 ～何が身に付いたか～
  - (7) 学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策 ～実施するために何が必要か～
    - ・学校の指導体制の充実（チーム学校等）
    - ・家庭・地域との連携・協働

3. 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性
- (1) 各学校段階の教育課程の基本的な枠組みと、学校段階間の接続
    - ① 幼児教育 ② 小学校 ③ 中学校 ④ 高等学校
    - ⑤ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校等における特別支援教育、特別支援学校
    - ⑥ 学校段階間の接続
  - (2) 各教科・科目等の内容の見直し
    - ① 総則 ② 国語、③ 社会、地理歴史、公民 ④ 算数、数学 ⑤ 理科 ⑥ 生活
    - ⑦ 音楽、芸術（音楽） ⑧ 図画工作、美術、芸術（美術、工芸） ⑨ 芸術（書道）
    - ⑩ 家庭、技術・家庭 ⑪ 体育、保健体育 ⑫ 外国語 ⑬ 情報
    - ⑭ 主として専門学科において開設される各教科・科目 ⑮ 道徳教育 ⑯ 特別活動
    - ⑰ 総合的な学習の時間